シート　１　　第　　学年　　組　　番　名前

※　解答は、《解答らん》に書きましょう。

山本さんは、宮沢賢治の『注文の多い料理店』を読書ゆう便でしょうかいすることにしました。次の文章は、物語のあらすじです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【あらすじ】

てっぽうをかついだ二人の紳士が山おくに狩りにやってきた。ところが、そこは、鳥もけものも一匹もいない山だった。やがて、あんまり山がものすごいので、連れていった二匹のりょう犬があわをふいて死んでしまった。

「犬が死んで、何百万円も損をした。」などと言いながら、二人は宿へもどろうとしたが、帰り道がわからない。しかも、二人はおなかがすいていて、あまり歩きたくなかった。

すると、二人の前にりっぱな家があらわれた。この家のげん関には、「西洋料理店　山猫軒」と書かれた札が出ていた。

入ってみると、ガラスの開き戸や、水色のペンキぬりの戸があった。戸の上には、黄色の字で「当軒は注文の多い料理店ですから、どうかそこはご了しょうちください。」と書かれていた。それを見た二人は、ここはなかなかはやっている店だと思った。

この店には、おくにただどりつくまでにたくさんの戸があった。そして、戸の一つ一つに、客へのお願いのようなものが書かれていた。

「注文はずいぶん多いでしょうが、どうかいちいちこらえてください。」

「髪をとかして、それからはき物のどろを落としてください。」

「鉄砲と弾をここへ置いてください。」

「金属製のものを全て外してください。」

「つぼの中のクリームを顔や手足にすっかりぬってください。」

二人は、次から次へと出される要求にこたえて、身につけていた物を外したり、クリームをぬったりした。この店のおくには、きっとえらい人が来ているにちがいない。二人は、そう思っていた。

次の戸には、

「料理はもうすぐできます。

十五分とお待たせはいたしません。

すぐ食べられます。

早くあなたの頭にびんの中の香水をよくふりかけてください。」

と書かれてあった。二人は香水を、頭にぱちゃぱちゃふりかけた。ところが、その香水は、どうも酢のようなにおいがした。続けて開けた戸には、

「いろいろと注文が多くてたいへんうるさかったでしょう。お気のどくでした。もうこれだけです。どうか、体中に、つぼの中の塩をよくもみこんでください。」

という言葉が……。二人は、ここで「注文」の本当の意味に気づいた。

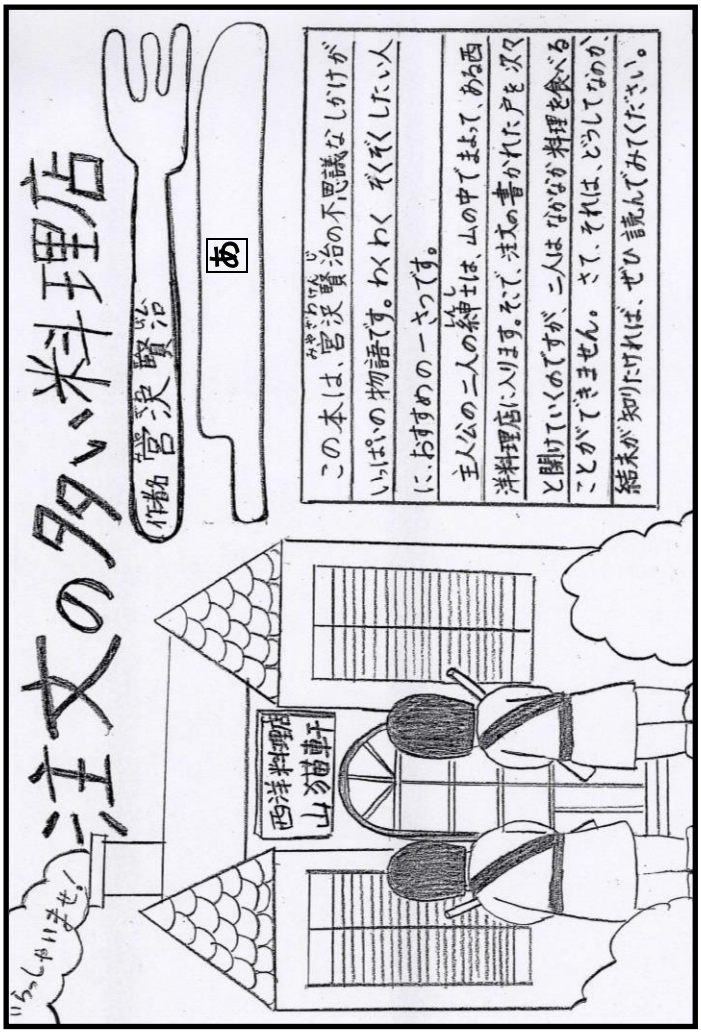
これまで、衣服をぬがせ、金属製のものを外させ、頭からかけさせられた香水が酢のようなにおいだったのは、すべて二人を食べるための下準備だったのだ。

「西洋料理店山猫軒」とは、「来た客に西洋料理を（　A　）店」ではなく、「来た客が西洋料理として（　B　）店」を意味していた。

引き返そうとしても戸は開かず、戸のかぎ穴からは目玉が二つ、こちらを見ている。おそろしさのあまり、二人は泣き出してしまい、顔は紙くずのようにくしゃくしゃになってしまった。

そのとき、後ろの戸を突きやぶって、死んだはずの二匹の犬があらわれ、先の戸に向かって突進していくと、開かなかった戸はがたりと開き、戸の向こうは真っ暗やみになっていた。気がつくと店はすっかり消え、二人は寒空の中に立っていた。

Ⅰ　山本さんは、みんなにこの本をわくわくしながら読んでもらいたいと考えました。そこで、結末を知らせないようにして、次の「読書ゆう便」を書きました。



読書ゆう便の**あ**の部分には、二人の紳士がまだこわがっていない場面の言葉が入ります。**あ**の部分に入る言葉として最もふさわしいものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　頭からかけさせられた香水が酢のようなにおいだった。

イ　当軒は注文の多い料理店ですから、どうかそこはごしょうちください。

ウ　戸のかぎ穴から目玉が二つ、こちらを見ている。

エ　死んだはずの二匹の犬があらわれた。

Ⅱ　【あらすじ】中の（**A**）、（**B**）に当てはまる言葉を、それぞれ**五字**で書きましょう。

三　次は、山本さんと同じ物語を読んだ中島さんが書いた本の帯（おび）の文章です。（　　）に入る言葉を、あとの条件に合わせて書きましょう。

> 「注文の多い料理店」と聞いて、みなさんは、どんな料理店を想像（そうぞう）しますか。
>
> この物語に出てくる二人の紳士のように、なかなかはやっている店を想像する人が多いはずです。ところが、この店の注文の正体は、たくさんの客がたくさんの料理を注文するというのではなくて、（　　）というものだったのです。
>
> はたして、二人の紳士の運命は……？

〈条件〉

○「**店**」「**客**」「**注文**」の三つの言葉をすべて使って書くこと。

○　**十五字以上、二十字以内**にまとめて書くこと。

シート　1　解答らん

第　　学年　　組　　番　名前

一

二

A

B

三

15

【国ページ】

シート　1　正答例

一　イ

二　A　食べさせる　　B　食べられる

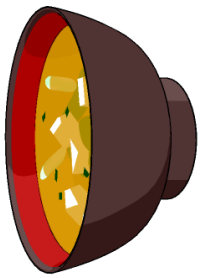
三　店が来た客にたくさんの注文をする、客に対して店が多くの注文を出す　等

シート　2　　第　　学年　　組　　番　名前

※　解答は、《解答らん》に書きましょう。

1　「スピーチをしよう」という学習に取り組んでいる歌田さんは、メモをもとに、次のスピーチをしました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【歌田さんのスピーチ】



わたしの家では、朝食か夕食で、毎日のようにみそ汁が出ます。みそ汁の具によく使われているのは、とうふとわかめです。

先日の全校集会で、丸山先生が「食料自給率」について話してくださいました。そのとき、みそやとうふなどの原料となる大豆の平成20年度の自給率が6パーセントと、とても低いことを知りました。日本で使っている大豆のうち、日本産は一割にも満たず、ほとんどを外国から輸入していることになります。

そこで、農林水産省のホームページで調べてみると、わかめなどの海藻類も、平成20年度の自給率が71パーセントしかありませんでした。日本は海に囲まれているのに、わかめなどの三割近くを輸入しているというのは意外でした。ちなみに、魚や貝などの魚介類も、62パーセントにとどまっていました。

一方、日本の食たくに欠かせない米は、95パーセントと、とても高い数値でした。ところが、小麦になると14パーセントに落ち込みます。最近よく食べられているパンやうどんの原料の多くは、外国産だということになります。

この表を見てください。この表は、りんごと牛肉と魚介類の自給率の移り変わりを表しています。年度は、上から順に、お父さんの生まれた年度、平成元年度、わたしの生まれた年度、平成20年度となっています。

日本の自給率がだんだんと下がってきたことが分かります。ただ、牛肉と魚介類を見ると、ここ十年くらいの間に、少し回復してきています。これは、最近よく聞かれる「地産地消」、つまり、地元でできたものを地元で食べよう、という運動などが影響しているのではないでしょうか。

わたしは、これから先、食料自給率がどんどん高くなればいいなと思います。

1　次の**ア**から**ケ**までは、スピーチをするために、歌田さんがふせん紙（のりつきの小さな紙）に書いたメモです。

ア　大豆（みそやとうふなどの原料）…6％	**イ**　小麦（パンやうどんなどの原料）…14％
ウ　魚介類…62％	**エ**　海藻類…71％
オ　米…95％	**カ**　自給率の移り変わり
キ「食料自給率」の話（丸山先生）	**ク**　わが家のみそ汁の具
ケ　地産地消	

歌田さんの話の流れにしたがって、メモをならべかえ、解答らんの（　）に**ア**から**キ**までの記号を書きましょう。（スピーチは**ク**のメモから始まり**ケ**で終わります。）

2　【歌田さんのスピーチ】の――線部「この表を見てください」のところで、歌田さんは次の表を見せました。表の（　　）①、②に当てはまる言葉を書きましょう。

品目別食料自給率の移り変わり（単位％）

	昭和47年度	平成元年度	平成11年度	平成20年度
（　①　）	101	92	64	54
（　②　）	80	54	36	44
魚介類	106	78	55	62

〈農林水産省のHPより〉

二　「大豆」に興味をもった歌田さんは、次の【資料】を読みました。この文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

大豆がわたしたちの食生活といかに深く関わっているかを、春子さんの生活から見てみましょう。

春子さんの家では、朝、納豆を食べることが日課になっています。大豆を加工して作られる納豆には、体によいものが数多く含まれています。

その一つが食物せんいです。納豆に含まれる食物せんいは、ほうれんそうの二倍にもなります。また、納豆には、脳の働きを活発にしたり、老化を防止したりする働きがあります。さらに、ビタミンB群が多く含まれているため、血行をよくする働きもあります。

春子さんのおねえさんは、子どものころから納豆ぎらいでした。（　　）、中学校の授業で納豆のよさを知ってからは、好んで食べるようになったそうです。

ところで、大豆は、今から約二千年前の弥生時代、中国から朝鮮半島を通じて日本にやってきたといわれています。

奈良時代には、日本と中国との交流が活発になり、大豆を加工してみそやしょうゆを作る方法が伝わりました。そして、鎌倉時代になると、各地で次々に戦が起こり、武士たちのエネルギー源となる大豆は、日本のあちこちで栽培されるようになりました。大豆がたくさん作られるにつれて、とうふや納豆など、みそやしょうゆ以外の加工品が広まっていきました。

こうして、大豆は、わたしたちの食生活に欠かせないものとなりました。

1　文中の（　　）に入る言葉として最もふさわしいものを、次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　そして　　イ　しかし　　ウ　だから　　エ　また

2　【資料】を読んで学んだことを、歌田さんは次のようにまとめました。

【歌田さんのノート】

> 納豆の中に含まれているものには、例えば、次のような働きがあります。
> ○　脳の働きを活発にする。
> ○　老化を防ぐ。
> ○　血行をよくする。
> 納豆のもととなる大豆は、今から約二千年前に日本にやってきて、鎌倉時代に日本各地に広まったといわれています。
> この文章を読んで、みそやしょうゆ、とうふなど、わたしが毎日食べている食品には、大豆を加工してできたものがたくさんあることが分かりました。

【歌田さんのノート】の――線部「大豆を加工してできたもの」を、意味はそのままにして、短い言葉で表します。【資料】の言葉を参考にして**六字**で書きましょう。

三　次の**ア**から**ウ**までの中から、【歌田さんのスピーチ】と【歌田さんのノート】の**どちらにも書いていない**ものを一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　インタビューをして知ったこと
イ　生活や体験に照らして考えたこと
ウ　本やホームページで調べたこと

シート　2　解答らん

第　　学年　　組　　番　名前

一　1

ク→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→**ケ**

2　①

②

二　1

2

三

ふーム　２　正答例

一　１　ク→（キ）→（ア）→（エ）→（ウ）→（オ）→（イ）→（カ）→ケ

　　２　①　りんご

　　②　牛肉

二　１　イ

　　２　大豆加工食品・大豆の加工品　等

三　　ア